



トランペット奏者として活動後、作家・音楽評論家に。新聞・雑誌などの執筆の他、オペラと落語を融合させた「オペらくご」の創案・脚本、音楽舞台脚本などに携わる。各種コンクール、オーディションの審査、カルチャーセンターでの講師も務める。

祝50歳！ 宮川彬良の魅力を「アンサンブル・ベガ」が演奏

阪神・淡路大震災からの心の復興を願い、ベガ・ホールで1998年に誕生した「宮川彬良 & アンサンブル・ベガ」が、9月11日に「アキラさん50歳記念！特別公演！」を開く。ショー仕立ての贅沢なコンサートの構成・脚本を担当している、音楽評論家の響敏也さんに話を伺った。

ベートーヴェンで思春期の悩みから脱却

響さんが、音楽にのめり込んだきっかけは何ですか？

音楽好きの家庭で育ち、子どものころから楽器にも触れていました。音楽に衝撃を受けたのは中学2年の時。「なぜ1+1は2なのか」「自分だけ違うのでは？」と思春期特有の悩みに陥っていたある日、ベートーヴェンの「運命」を聴いて、半年間続いた苦しみから抜け出せたのです。私にとってベートーヴェンは恩人ですから、今でもウィーンへお墓参りに行くんです。最初の仕事は、トランペット奏者として放送局の管弦楽団に入団しましたが、そこはジャズの世界で、先輩からプロのミュージシャンらしい歩き方、しゃべり方、食事から時間の過ごし方まで生活全てに細かく口を挟まれ、自尊心は叩きのめされました。他に行き場所も無かったので耐え続けたら、新人への洗礼は1年でピタッと収まり、その後には可愛がられたり重宝がられたりしましたね。

音楽番組やカラオケの録音などで大活躍でしたが、作家に転向されます。

小学生から台本を書いていて、文章が好きだというのが耳にしたディレクターに頼まれ、ラジオ音楽番組のナレーション原稿を書き始めました。5年目に楽団が解散してから執筆業が本業になり、最初の原稿料振り込みのために取りあえず付けた「響敏也」のペンネームを悔やみましたが(笑)、今では病院で本名を呼ばれても気付かないほど馴染んでいます。

クラシックは命の尊さを伝える音楽

「宮川彬良&アンサンブル・ベガ」のベガ・ホール定期演奏会が、9月11日に第17回を迎えます。

1998年に、大阪フィルハーモニー交響楽団の首席コントラバス奏者・新真二さんの声かけで、有名交響楽団の首席演奏者らが集まり、阪神・淡路大震災からの心の復興を願い、アンサンブルが結成され、私はコンサートの構成・脚本を担当することになりました。このメンバーが素晴らしいのは、演奏だけではなく魅力的な人間性。個人的なプレイヤーが集まっているのに14年間目立ったケンカもなく、仲間との演奏を心から楽しんでます。クラシックというとお金持ちの趣味で敷居が高いと感じる人もいますが、そうではなく「文化の世界遺産」だと私は思っています。何年もの構想の末に作曲家が書き上げた音楽が、何百年も前の審判を経て受け継がれ、訓練を積んだ演奏家によって奏でられると、知識が無くても「スゴイ」と感じます。それは、昨日今日では生み出せない時間に対する尊敬、つまり命を尊いと思う気持ちなんですね。我々は、本物の音を楽しむことができることで、命の素晴らしさを多くの人に感じて欲しいと願っています。

今回の「コンサート」のテーマは「アキラさん50歳記念」です。

節目の年を迎えた宮川彬良さんの現在の活動、ミュージカルなどの舞台音楽、NHK等の音楽番組、コンサート楽曲、編曲を「アンサンブル・ベガ」が魅力たっぷりに演奏します。アキラさんの今を聴いて、彼のこれからの活動の方向性をお客様に感じてもらえればうれしいです。ぜひベガ・ホールで一緒に楽しみましょう。

還暦祝に美しい
ポートレートを遺しませんか？

人生の最終章をかざるお写真をお撮り致します。

詳しくはお問合せください。

思い出がいっぱいあって処分できずお困りの
ご不要のカメラ引取ります

故障・写さなくなったカメラ、
自分でどう処分したら良いかわからないカメラ
どんなものでも引き取ります！

ナカモト
フォトスタジオ

☎ 0797-73-8550
営業時間 AM10:00 ~ PM7:00 水曜定休